

シグマ委員会
5年度第3回運営委員会議事録

日時： 1993年12月17日（金） 13:30～17:30
場所： 日本原子力研究所東海研究所 第6会議室
出席者： 中嶋（法大、主査）、吉田（東芝）、若林（動燃）、菊池、長谷川、前川、
水本、中川（以上原研）
幹事： 中島（原研）
オブザーバー： 五十嵐（NEDAC）、松延（住友原工）、川合（東芝）、
深堀（原研）

配布資料

1. 平成5年度第2回運営委員会議事録（案）
2. 平成5年度シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会本委員会議事録（案）
3. 諮問・調整委員会会合議事録（案）
4. 「FENDL のための不確定性ファイルと改善した多群断面積ファイルのレビュー」に関する IAEA 諮問会議
5. 「核融合炉技術のための放射化断面積測定と実験技術の比較」に関する IAEA 専門家会議
6. 1993年核データ研究会報告
7. 「共分散専門家会議」報告
8. シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会/本委員、運営委員、諮問・調整委員名簿
9. Gatlinburg 会議プログラム委員会報告

議 事

I. 議事録確認

1. 前回6月10日の議事録（配布資料1）を確認した。
2. 平成5年度シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会本委員会議事録（配布資料2）を確認した。

II. 報告事項

1. 諮問・調整委員会報告

12月3日に開催された諮問・調整委員会会合について、配布資料3により長谷川氏が報告し、シグマ委員会の将来についてのアンケートに対する各委員からの意見が紹介された。

2. 「FENDL のための不確定性ファイルと改善した多群断面積ファイルのレビュー」に関する IAEA 諮問会議および「核融合炉技術のための放射化断面積測定と実験技術の比較」に関する IAEA 専門家会議報告

前川氏が配布資料4,5により会議の概要を次の通り報告した。FENDL に関する諮問会議では、中性子・ガンマ線の実験ベンチマークデータ、FENDL/ITER 用処理済ライブラリーの整備、FENDL を改善するための手順の決定、FENDL のための放射化ファイルの選定について検討し、これらに関して提言をした。放射化断面積測定に関する専門家会議では 14MeV 中性子放射化断面積の測定、14 MeV 以下のエネルギーでの断面積の測定、14 MeV 領域の断面積の推奨値、放射化断面積測定に関する国際協力に関する NEANSC 作業グループとの協力について検討し、提言をした。

3. 1993年核データ研究会報告

川合氏が配布資料6により、標記会合の様子を概略次の通り報告した。参加者は 162 名であった。国際セッションと一部を除いて講演時間を1時間としたので、丁寧な説明が受け

られ、質疑応答の時間も十分とれた。パネル討論では若手からの意欲的な発言が有り今後の活動への息吹を感じた。ポスターセッションは研究交流と活性化に大きく寄与している。会場は好評であった。

4. 共分散専門家会議報告

中島氏が配布資料 7 により、7 月 15 ~ 16 日に開催された標記会合について次の通り報告した。参加者は 24 名であった。発表の内容は、共分散の意味 2 件、共分散の処理と表現 3 件、共分散の算出法 6 件、共分散の利用 2 件であった。討論は非常に活発で、議論も激しく戦わされ、評価者と利用者、評価者どうしの意志の疎通に役立った。利用者が少ないこと、評価した共分散を実証する手だてがないことが、評価の進捗を遅らせている。報文集を出版する予定で原稿を集めているが、約半数が集まっている。

5. 委員会旅費について

中島氏が今年度の旅費の使用状況を次の通り報告した。最近若干の委員会旅費の配算があり、余裕が出てきたので、今年度の会合は WG を含めて必要に応じて開催する事が出来る。

6. Gatlinburg 核データ国際会議プログラム委員会報告

菊池氏が12月6~7日米国アトランタで開催された標記会合の結果について概略次の通り報告した。日本からの招待講演は7件が採択された。この委員会では決定されなかったが、口頭発表として11件を推薦した。全部で約 400 件の応募があった。

7. その他

- ・水本氏が1993年12月末で原研 LINAC が shut down することを報告した。
- ・シグマ委員会 2 年報は原子力誌 1 月号に掲載される予定であることを深堀氏が報告した。

Ⅲ. 審議事項

1. 日本原子力学会春の年会「(核データ・炉物理) 合同特別会合」の議題について審議の結果次の通り決定した。

- (1)核融合炉ブランケット中性子工学に関する日米協力の成果
前川 洋 (原研) 40分+10分 (討論)
- (2)量子論的分子動力学による中間エネルギー核反応解析
仁井田 浩二 (原子力データセンター) 40分+10分 (討論)
- (3)NEANSC核データ評価国際協力について
菊池 康之 (原研) 10分+5分 (討論)
- (4)事務局報告 5分

座長は神田 幸則氏 (九大総理工) にお願いする。

2. シグマ委員会来年度の体制 (本委員、諮問調整委員、運営委員、WG、その他) について次の通り変更することに決定した。

本委員

- 加藤 敏郎 (名大工) → 河出 清 (名大工)
五十嵐 信一 (原子力データセンター) 辞退
長谷川 明 (原研) → 山野 直樹 (住友原子力)

運営委員

- 長谷川 明 (原研) → 山野 直樹 (住友原工)

諮問・調整委員

- 五十嵐 信一 (原子力データセンター) 辞退
長谷川 明 (原研) → 水本 元治 (原研)

炉定数専門部会長

長谷川 明（原研） ー> 山野 直樹（住友原子力）

WGの廃止

重核データ修正WG

ガンマ線生成データ修正WG

荷電粒子核データWGは目標を明確にする。

炉定数専門部会は今年度と同じ体制とする。

核構造・崩壊データ専門部会の体制を名称を含めて検討する。

WGメンバーの見直しをする。

3. その他

・ Garchingで開かれたEFFの会合に出席した前川氏がその様子について報告した。このプロジェクトはDaenner氏(NET)が取り仕切っている。宿題が沢山残っているところを見ると、予定通り進んでいるようには見えない。ITER 側は資金がなくても核データは整備されると思っている。

・ 前回の運営員会で岡本氏が提案した”サンプルに関する WG ”については、次回に討論する。

・ ITER のシステム、金の動きについて前川氏に話をしてもらいたい。

IV. その他

次回は2月25日（金）に東京で開く。

宿題事項

担 当	宿 題 事 項	期 限
事務局	WG リーダーに会合を昨年並みの回数で開いても良いことを伝える。	早 急
事務局	原子力学会合同特別会合の座長を神田氏に頼む。 合同特別会合の議題を平川氏（東北大）に連絡する。	早 急
事務局	本委員として加藤氏（名大）の代わりに河出氏（名大）、 本委員、運営委員、炉定数専門部会長として長谷川氏の 代わりに山野氏（住友原工）に依頼する。	早 急
各 WG リーダー	WG メンバーを見直しをする。	早 急
吉田氏	内藤氏、菊池氏と来年度の核構造・崩壊データ専門部会 の体制を名称を含めて検討する。	早 急
専門部会長	各 WG の作業状況をまとめて、次回に報告する。	次 回

参考

・ 次回の議題

(1) サンプルに関する WG 設立について岡本氏に説明してもらう。

(2) ITER 関係の組織について前川氏に説明してもらう。

(3) 各 WG 作業状況の報告（各専門部会長）